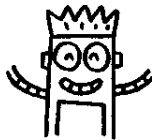


しょうとくたいし 聖徳太子は、どんな政治を行ったの



てんのう けんい
天皇の権威を強める、役人の制度を改める、仏教
をさかんにするなどの政治を行ったんだよ。

うまやどのおうじ
聖徳太子（厩戸皇子）は、593年にすいこてんのう
推古天皇から政治をまかされてから、約
10年の間、国内政治・外交・文化の面で活躍しました。

国内政治の面で行ったこと

かんいじゅうにかい
冠位十二階を定めた（603年制定）：役人の仕事や地位が、いえがら
家柄によって代々
決まっている制度に代えて、個人のこうせき
功績によって地位を決める制度に代えた。
けんぽう
十七条の憲法をつくった（604年制定）：役人の道徳を説いたもので、国の中
心が天皇であること、仏教をうやまうことなどもふくめている。

外交の面で行ったこと

中国と対等の外交をめざした。：中国に従うのではなく、対等なつきあいを求め、
「日出づる ところ
処（日本）の天子、書を日没する ところ
処（中国）の天子に致す」の文で
ずい
始まる隋（中国）の皇帝あての国書を送った。
おののいもこ ずい
小野妹子を隋（中国）に派遣した（607年）：隋との国交を開き、学問僧・留
学生を送って、大陸文化を取り入れることにつとめた。

文化の面で行ったこと

あすかであら しゃかによらいざぞう
仏教をさかんにすることにつとめた：飛鳥寺の釈迦如来坐像（飛鳥大仏）をつく
り、ほうりゅうじ してんのうじ
法隆寺・四天王寺などのお寺を建てた。三つの経典の中の文やことばを説
明する「さんぎようぎしよ
三経義疏」を書いた。
てんのう き こっ き
歴史書をつくった：「天皇記」「国記」などの歴史書をつくり、天皇の権威を強
めることに役立てようとした。